

Open Data Labo

Code for ふじのくに

団体概要

[Code for ふじのくに]

ITを活用し、より良い社会を目指して地域の課題解決にあたります。を目標に沼津市に限らず生活圏に活動を広げています。最近では近隣のCode for やシビックテック活動をしている人達を巻き込み、オンラインでも繋がりながら活動しています。

Webサイト <https://www.code4numazu.org/>

目的 沼津市のIT企業はわずか1%

減り続ける生産人口を現在の産業体制や労働体制で補うことは不可能で、ITの力が必要となってくる中、沼津市の情報通信業はわずか1%しかありません。外部からのIT産業に頼ってでは将来的に沼津市自体の稼ぐ力が失われる事が予想されます。

IT産業は大規模な設備投資なしでも起業がしやすい為、市内起業者や沼津市を本店としてもらうIT企業を増やすために市民自身がIT力を身につける必要があります、それが出来ない場合でも新しい産業を受け入れる土壌を作る必要があります。

そのための礎としてデータとは何かを知り、自分たちで扱う事で正しい知識と利活用の方法を広める為Open Data Laboを開催しました。

事業概要 データ利活用ワークショップ

文化財をテーマにしたWikipediatown、
防災や生活情報を地図で表示するマッピングパーティー、
市のデータを利活用できるオープンデータワークショップを開催

開催内容1

オープンデータワークショップ

2019/4/28 13:00-17:00 会場 CafeM103

「OpenDataLabo」

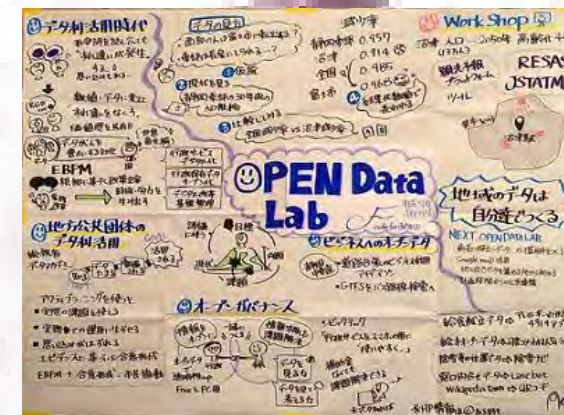
講師 東京造形大学特任教授 市川博之

FacebookのCode for ふじのくにでイベントを立て参加者募集

参加費0円 参加人数12人

開催内容 <https://www.code4numazu.org/?p=1036>

参加者と共に沼津市のオープンデータを用い、観光予測プラットフォームやRESAS, JstatMapなどを利用し、2050年の高齢化予測や駅から徒歩圏内の商圈店舗数などを出して見た。



2019/10/6 9:30-16:30 会場 ベルフォーレ長泉

「Wikipediatown沼津#15とマッピングパーティーUDC2019」

講師 OpenStreetMapファウンダー斉藤さん、Wikipedia管理者ハロワンドさん、ジオパークガイド鈴木さん

FacebookのCode for ふじのくにでイベントを立て参加者募集

参加費0円 参加人数15人

開催内容 <https://www.code4numazu.org/?p=1094>

鮎つぼの滝をテーマにジオパークガイドの解説を聞きながら地図と執筆の為の現地調査を行い、写真や公園内の位置情報を取得する。

現地調査での情報をもとに、マッピングパーティー班ではOpenStreetMapの入力を行いWikipediatown班では図書館での資料をもとにWikipediaに掲載する文章を執筆する。



開催内容2

オープンデータワークショップ
2020/3/21-22 会場 戸田図書館

「Wikipediatown#16」

講師 沼津市文化財センター木村さん

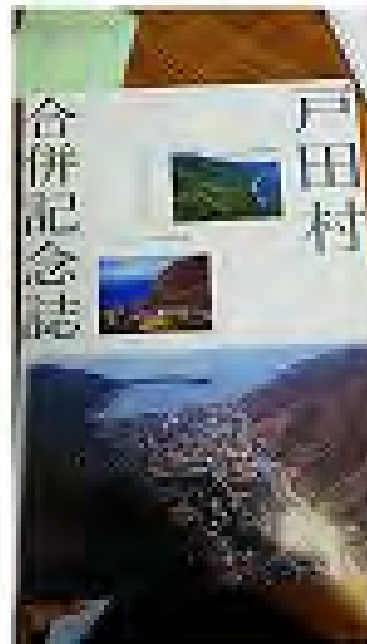
FacebookのCode for ふじのくにでイベントを立て参加者募集

参加費0円 参加人数13人

開催内容

沼津市の文化財であり修復中の松城邸を見学許可を取り、文化財センターの職員と修復を担当している会社さんの双方からの解説を交えつつ現地調査。

翌日戸田図書館にある資料を活用し、Wikipediaに掲載する為の文章を執筆して書く。



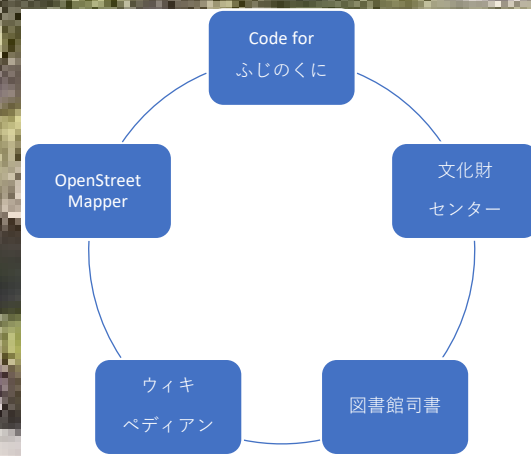
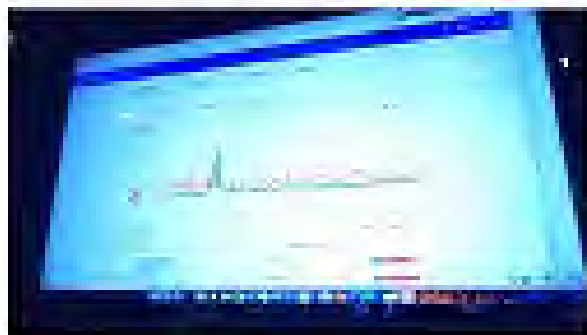
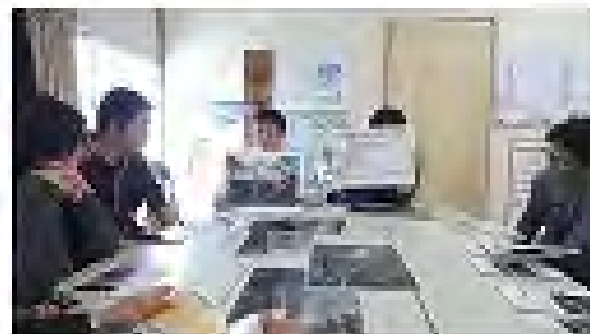
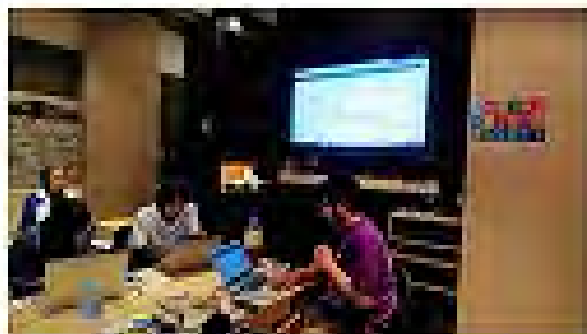
考察・事業効果

OpenDataLaboの成果 沼津市議員が参加することにより沼津市へのIT政策に対しての布石を打つ事ができた。

Open Street Mapの成果 鮎つぼの滝公園内の地図がgooglemapより詳しくなり、公園備品の修繕や園内地図への活用が期待できる。

Wikipediatownの成果 Wikipedia内に松城邸の新規記事が作成され、googleのインフォボックスに情報が表示される様になった。

これらの活動を通し、京都、愛知、からも参加者が訪れ、沼津市外の有識者と繋がりを持つ事ができた。



今後の課題とこれからの展望

今後の課題として

市外からの参加が積極的にあるが、沼津市民の参加は極端に少ない。このままではITを受け入れる土壌を作ることは難しく、まちづくりファンドを3年続けてきたが沼津市への普及という点においては市民活動では限界を感じる。

市民活動としてではなく政策として積極的にITを活用していく方針を示し、速やかに実行していく事が必要になると思われる。

まちづくりファンドで事業を行っていて今後の展望は無いのもうこの事業は行わないが、Code for 富士のくにとしては同様の内容を地道に活動していこうと思っている。

